



発生動向等サーベイランス情報

アルコール消毒が効きにくい夏の感染症 ～手洗いが大切！～

夏に小児を中心に流行する感染症を紹介します。

咽頭結膜熱



発熱、のどの痛み、結膜炎（目の充血や痛み等）といった症状が3～5日間続きます。乳幼児、基礎疾患がある方、高齢者では重症化することがあります。

ヘルパンギーナ



発熱、のどの痛み、口の中の小さな水ぶくれといった症状が出ます。口の中の痛みが強いため、水分が摂れず脱水症状になることがあります。発熱時に熱性けいれんを起こしたり、ごくまれに髄膜炎や心筋炎などを合併することもあります。

手足口病



口の中、手のひら、足の裏や甲などに2～3mmの水ぶくれを伴う発疹が出ます。まれに髄膜炎や脳炎などの中枢神経系の合併症を引き起こすこともあります。

★感染経路：接触感染、飛沫感染

★感染対策：石けんによる手洗い、排泄物の適切な処理※、タオルの共用をしない

※症状が消えた後も、約1ヶ月にわたって便の中にウイルスが排泄されます。

トイレ使用時やおむつ交換の際には排泄物を適切に処理し、その後石けんでしっかり手を洗いましょう。

感染対策のポイント

シリーズ14:抗菌薬使用時にも注意！

ヒトの腸内には、私たちの体と共存している多くの微生物（腸内細菌叢）が存在しています。これらの微生物は、絶妙なバランスを維持するとともに、ヒトの体の働きと密接に関係しており、腸内細菌叢の変化が様々な疾患の原因の一つとなることが知られています。抗菌薬（抗生物質）使用時には、この腸内細菌叢が乱れてしまい、他の微生物の増殖を許してしまいます。この際に「ディフィシル菌」という細菌が増え、発熱や下痢を引き起こす「ディフィシル菌感染症」が問題となることがあります。このディフィシル菌はアルコールが効かない芽胞という形態に変化することができ、しばしば病院や施設などで流行することがあり注意が必要です。

（医師へ症状を正しく伝え、処方された抗菌薬は、指示どおりきちんと飲む必要があります。）

感染症専門家からのアドバイス



咽頭結膜熱の原因となるアデノウイルス、ヘルパンギーナや手足口病の原因となるエンテロウイルスは、消化管内でも増殖して便中に大量に排出されます。施設利用者さんが感染した際のオムツ交換、スタッフご自身が感染された際のトイレ後などでは、普段の手指アルコール消毒に加えて、石けんを用いた手洗いを追加して行うことが重要です。